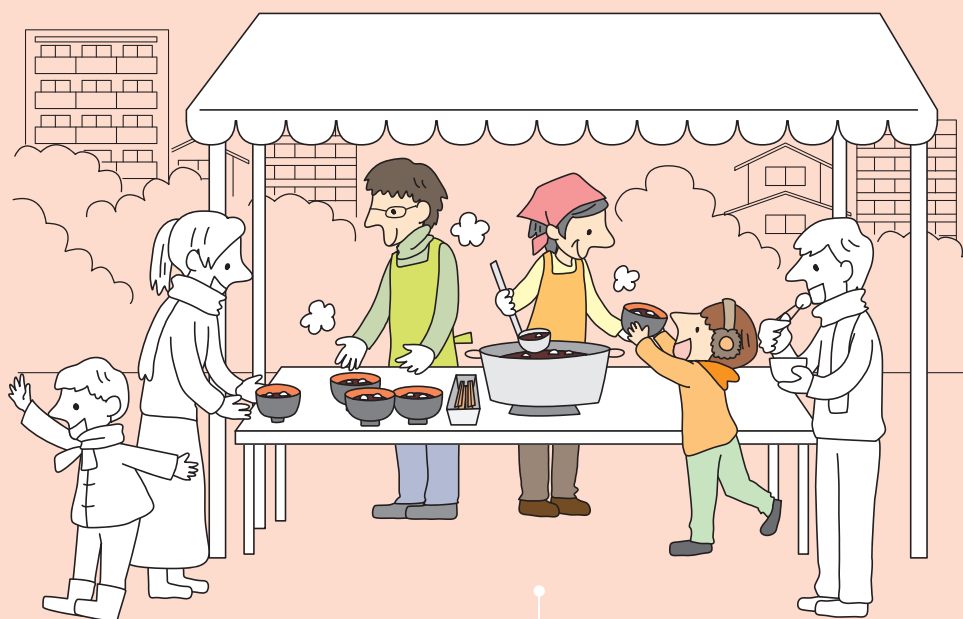


きずな

2014年
(平成26年)

1



1月17日 防災とボランティアの日

1995(平成7)年1月17日に発生した阪神・淡路大震災の直後からボランティア活動が活発化したことを受け、同年12月に制定が決まり、翌年から実施されました。1月15日～21日は「防災とボランティア週間」と定められています。

特集テーマ

つながりづくり

広げようそれぞれのつながり



- ② 「安全で元気なふるさと兵庫」をめざして
井戸敏三(兵庫県知事)
- ③ Human Rights
岩田健三郎さん(版画家)
- ④ つながりの地域づくりのために
宮本太郎さん(中央大学法学部 教授)
- ⑤ 地域の高齢者を24時間態勢で見守る
特別養護老人ホーム「鹿児の郷」(加古川市)
- ⑥ 寄り添い、つながる「心のケア」
中村経子さん(臨床心理士)
- ⑦ ありと かえるみち
清水優茉(丹波市)
平成25年度のじぎく文芸賞(詩部門)最優秀賞受賞
- ⑧ 情報ぶらざ



「安全で元気なふるさと兵庫」をめざして

兵庫県知事

(公益財団法人兵庫県人権啓発協会会長)

井戸敏三



新年あけましておめでとうございます。故郷でお正月を過ごされた方も多いのではないのでしょうか。

県では昨年、県民モニターの方にアンケートを実施しました。その中で、「ふるさと」から浮かぶ子どもの頃の思い出について質問したところ、半数以上の方が、「地域のお祭りやイベント」、「祖父母、両親、家族、幼なじみ」をあげました。次いで「山歩きや川遊び、山からの眺望」、「人とのつながり・ふれあい」の割合が高くなっています。私も、ふるさとについて聞かれると、故郷新宮のお祭りの屋台で太鼓をたたいたこと、正月のほとんど祭り、仲間との揖保川での遊泳、うなぎやなまず取り、農作業の手伝いなど、数え上げればきりがないほどの思い出が浮かんできます。

ふるさとは、単に生まれ育った場所ではありません。都市であれ地方であれ、地域行事

や自然の中でのさまざまな経験、家族や身近な人との交流や体験を重ねることではじめて、ふるさとなるのです。

今、家族や地域、職場等でのつながりや支え合いが薄れる「無縁社会」と呼ばれる状況が拡大し、地域の活力やコミュニティ機能の低下が懸念されています。また、子どもや高齢者への虐待、いじめ、インターネットを悪用した差別事件などの人権侵害が後を絶ちません。

このような状況に置かれている今こそ、ふるさと意識の育成が重要になっています。昔は、地域全体が一つの家族のようなつながりを持っていました。子どもは、地域の子どもとして多くの人たちに見守られながら、地域の一員として育ち、力を合わせてふるさとを守り育てる連帯感を共有してきたのです。

それだけに兵庫県は、地域社会や学校、自

然とのふれあいなど、さまざまな場面において、多様な体験や人々とのふれあいを促す取り組みを進めています。環境学習やトライやる・ウィークなどを通じて、ふるさとの自然の豊かさや命の尊重、人々との関わりを、自ら感じて学んでほしいと思っています。そして、自然に自分も生かされていること、人々が社会の中で、それぞれが存在し、役割を果たしていること、だからお互いに大切にしなければならぬことを身につけてほしいのです。

これからの兵庫をつくるのは、兵庫をふるさとと意識し、地域を愛し、地域とともに歩んでいく県民一人ひとりで。共に力を合わせ「安全で元気なふるさと兵庫」の実現をめざしていこうではありませんか。

本年もどうぞよろしく願います。

Human Rights

にんげんのけんり



岩田健一郎

1947年姫路市保城に生まれ、いまもここに。
あちこちを訪ね歩いて
びあった人や町と縁とを
20歳のころから発行している個人
「へらへらつうしん」をいまも
<http://www.hera-hera.net>

友人・知人が集った暮らしの中の楽しい
ものを展示「川のほとりの美術館」と自宅
近くに。姫路市西中島416-9

地の名が、地のもので、地の人に届ける
食・地の産・産物。2014年2月に姫路
でのスロー・フード全国大会を開催。

どうも、頭だけど
わかったつもりにな
っているのではないか
と思うのです。

わたしだけやろか。

人権について考えていて
そう思うのです。「人を
差別してはいけない」
そんなことは、当然だと頭
で思っていて、わかったつもりに
なっている。

ほんまに、わかっているのかいなと
と、他でもない、自分で自分が
疑わしい。差別する側にも、さ
れる側にもなっている。

本を、目で読んでいて、ふと
声に出して読んでみた時に
目だけで読んでいたのとは
違う、何か新鮮な感じが

したのです。いい年齢を
して、小学生のような…とテレ
くさいのですが、小学生になっ
てみるのも、いいかもしれませ
ん。声に出してみようとして
読めない漢字にも気が
きました。目で読
んでいる時は、感
じだけで、わかった
つもりになっていたの
です。

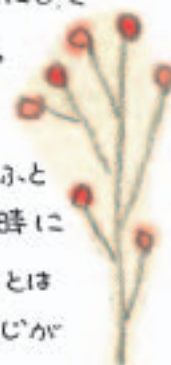
辞書で調べ
て、読み方を
知っていました。
調べる・知っていく
ことをする。このこと
が、何歳になっても
必要なのだと、改めて
気づくのです。それが
はつらつとした気持ちに
させていく。講座にな
る。…忘れていました。



声に出してみる。肉声の復権
です。便利になって、メールや
ケータイといった器械の音ばかり
です。

では、「人権」で、手話では、ど
う表わすの？と、耳の不自由
な友人に教えてもらいまし
た。「人」は、親ゆびが
男で、小ゆびが女で、ふた
つで人間です。「権利」は
持っているもの…といふ、物
を持ち上げるしくさです。

手話をすることで、言葉が
肉体化したように思え
るのです。そして、「そう
か…人権は、人として
生まれた すべての人が、おの
ずと持っているものなのだ」
と、実感できたのでした。
「人権・にんげんのけんり」と声
に出して、手で話してみるのです。



つながりづくり

近年、単身世帯の増加等の家族形態の変化や経済構造のグローバル化等による雇用形態の変化、価値観の多様化などにより、人と人との関係が希薄になる「無縁社会」と呼ばれる状況が問題になっています。このような状況を乗り越えるために、人と人がつながり、支え合って暮らせる地域づくりについて考えてみましょう。

メッセージ

つながりの地域づくりのために

宮本 太郎さん（中央大学法学部 教授）

移りゆく縁の形

地域のつながりが弱まったと嘆く人が多い。日本の地域社会では、勤め人が増えるなかで「社縁」が比重を高め、「地縁」は自営業者や商店街などにその維持がゆだねられるようになりました。ところが、雇用の流動化で社縁も揺らぎ、零細な流通業に対する保護が弱まるなかで、商店街の賑わいも郊外のショッピングモールに吸収されてしまう傾向にあります。

たしかに無縁社会などという言葉

も飛び交っています。だが縁というのは移りゆくものであり、絶えず生成するものです。社縁や地縁もまたずっと同じ形であったわけではありません。社会学者の新雅史によれば、商店街が形成されはじめたのは1930年代の後半で、百貨店の建物が横に並んだようなものとして、「横の百貨店」と呼ばれたといえます。商店街が各地に広がったのは戦後のことなのです。

また、日本の人々が閉じた縁のな

かに閉じこもってきたかという決してそうではありません。もともと歴史学者の網野善彦が「無縁」という言葉をつかったとき、それは閉じた共同体から自由になるうとする人々による新しい関係を指していました。映画「男はつらいよ」のフーテンの寅さんこと車寅次郎は、露天商として各地を渡り歩きながらさま

ざまな人の関係をとirmもっていきます。日本人はそのような、縁の外に出て縁をつないでいく自由な存在を愛してやまないのです。

新しい縁の形成と

古い縁の継承

地域では、子育てや介護、あるいは生活困窮者の支援など、新しい縁を必要とするニーズが次々に生じています。これまでは、縦割り行政がこうした課題に個別に対応してきました。しかし、行政だけががんばっても、母親、子ども、高齢者、困窮者が「元氣を取り戻す」という課題を達成していくことは難しいのです。その一方で、たとえば高齢者と若者や母子家庭が世代を超えて居住する集合住宅をつくる「世代間居住」や、高齢者や障がいのある人々、子どもなどに対する福祉サービスを同

じ空間で提供し、相互の支え合いをも実現していく「共生型福祉」などの試みが広がっています。これらは、新しい家族、新しい縁の形成であるのです。

各地で、社会福祉法人、NPO、医療などの分野を問わず、多様な立場の人が現代の寅さんよろしく、縁の結び役になっています。こうした新しい縁結びをもとに引き受けていくことが、古い縁をもよみがえらせ継承していく有効な方法だと思います。

.....

プロフィール 1958（昭和33）年、東京都生まれ。政治学博士。立命館大学法学部助教授、ストックホルム大学客員研究員、北海道大学法学部教授などを経て、2013（平成25）年から現職。労働政策審議会委員、中央教育審議会委員、日本学術会議連携委員、社会保障審議会委員、社会保障制度改革国民会議委員なども務めている。著書に「生活保障 排除しない社会へ」（岩波新書）など多数。



取材
ノート
から

地域の高齢者を24時間態勢で見守る

特別養護老人ホーム「鹿児の郷」^{かこ さと}（加古川市）

兵庫県では今年度から「兵庫県24時間LSA地域見守り事業」を始めました。同事業は、高齢化に伴い、公営のシルバーハウジングに配置されているLSA（生活援助員）と同様の支援が一般の在宅高齢者にも必要とのことから、24時間態勢で見守りサービスに取り組み特別養護老人ホーム（特養）を「地域サポート型特養」と認定し、LSAの人件費などを補助するということです。

加古川市にある特養「鹿児の郷」は「高齢者が地域でより長く自立した生活を送れるように支援したい」との考えから、昨年6月に認定を受けました。見守りの対象は、一人暮らしの認知症の人や介護保険認定に該当しない人など。スタッフが週1回自宅を訪問するほか、電話でも安全確認を行います。夜間は電話で対応し、緊急時には駆け付けます。

「訪問時には顔色や生活の様子を確認します。『顔を見ると安心する』と言われることが一番うれしいです」とスタッフの赤池和子さん。利用者の86歳の男性は「鹿児の郷の方は親切で家族のように接してくれます。一人で暮らす心配が減りました」と話します。

サービスの利用料は月3000円。開始から半年が過



「調子はどうですか」とにこやかに話し掛ける赤池さん（左）

きた現在、理事長の瀧淑郎^{たきしろう}さんは利用者の増加に向け、広報の充実を今後の課題に挙げます。「まずはサービスの内容をしっかりと伝えることが重要。実際に利用すれば絶対に満足していただける自信がありますから」と語ります。

地域とのつながりを大切にしている鹿児の郷では、毎年7月に納涼祭を開催。約1300人もの人々が集まり大盛況だそうです。また、地域の書道やダンスなど趣味のサークルを招き、入居者にレッスンを開くなど、地縁づくりに取り組んでいます。

納涼祭は地域の夏の風物詩です



社会福祉法人福竹会
特別養護老人ホーム「鹿児の郷」
加古川市平荘町山角1038-4
TEL 079(428)1765

じんけん情報

「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンを推進中

兵庫県では、県民一人ひとりが「無縁社会」と呼ばれる社会状況について考え、人と人とがつながり支え合える社会の実現に向けて、「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンを展開しています。

問「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーン
推進協議会（県社会福祉協議会内）
TEL 078 (242) 4634 FAX 078 (242) 0297

ストップザ無縁社会

検索

キャンペーンに賛同する各種団体はキャンペーンホームページからロゴマークをダウンロードし、広報紙・誌等に無料で掲載できます



被災地を
支援して
通

寄り添い、つながる「心のケア」

なかむらのりこ
中村 経子さん（臨床心理士）

1995年のルミナリエ

阪神・淡路大震災が発生した当時、わたしは大学生でした。1995（平成7）年12月、わたしは第1回神戸ルミナリエで屋台のアルバイトをしました。毎日、大変なにぎわいで、冷蔵庫に缶ビールをいくら補充しても間に合いませんでした。

あれは最も混雑した時間帯だったでしょう。客の男性にその缶ビールを手渡した途端、「冷えてへんやないか！」と怒鳴られてしまいました。わたしは「すみません、これしかないです」と謝りましたが、男性はそのまま無然とした表情で立ち去りました。若いわたしはその態度を腹立たしく思ったものでした。

2011年の南三陸町

東日本大震災発生後、わたしが初めて東北を訪れたのは2011（平成23）



年5月のことです。宮城県沿岸部の被災した地域の学校が再開しようやうく2週間。自衛隊や各都道府県の警察車両が町の中を忙しく行き交っていた頃でした。

派遣先となった南三陸町の小学校での出来事です。わたしはあのルミナリエでの一件をふと思い出し、「本当に自分が何かの役に立てるのだろうか」と考えながら廊下を歩いていました。すると、4年生（当時）の子ども達が「先生はどこから来たの？」と話しかけてきました。わたしが「兵庫県だよ」と言うと、間髪入れず「ヒョウゴケンには何があるの？」と返ってきました。まさかそんな質問が飛び出すとは思ってもよらず、わたしは苦しまぎれに「神戸牛」と答えました。すると、今度は子ども達から「コウベギウって何？」。わたしが「牛のお肉だよ」と説明すると、子ども達は「先生、『にく』って言わねえよ『ぬぐ』だよ、『ぬぐ』！」と、ケラケラ笑いながら教えてくれました。後で先生方からお聞きしたところでは、「お年寄りの『発音』をわざと真似して遊んでいるんです」とのことでしたが、わたしが驚いたのは子ども達の「人懐っこさ」です。その頃、本当にたくさんの人々が東北沿岸に駆けつけていました。もちろんわたしもその一人ですが、学校にも毎日、たくさん

の来客がありました。誰かが教えたわけでもなく、子ども達は外部からの訪問者とすぐに仲よくなる方法を身につけていたのです。それは笑顔とユーモアです。不思議なことに、人は一緒に笑うだけですぐに打ち解けることができるのです。子ども達のおかげで、わたしは自然と学校に馴染むことができました。

そして、あつという間に活動最終日。体育館で開催された慰問ライブを一緒にお聴きしたことも今でも懐かしく思い出します。わたしがまた東北を訪れたいと思ったのは、このようなふれあいの時間を共有できたからだと思います。この時、わたしはすっかり東北の人達が大好きになっていました。

これからの東北に必要なこと

東北を訪れた際には必ず新しい変化を見つけ出すとするとわたしがあります。初めて南三陸町を訪れた頃は、日が暮れると本当に真っ暗でした。もうすぐ震災から1年という頃だったでしょうか、交差点の赤信号に大喜びし、タクシートの運転手さんを驚かせたこともありました。その時、太陽光発電式の街灯は神戸から贈られたものだとなりました。震災から2年半後に訪れた時には、すでに新しい道路や宅地造成のための工事も始まっていた。しかし、家を失われた方々

すべてが公営の復興住宅に入居するのは2016年の春までかかるそうです（※）。わたしに東北弁を教えてくださいました。彼らが震災前のようにマウンテンバイクで通学できるようにするのはいつの日のことでしょうか。

今にして思えば、ルミナリエで出会ったあの男性は、「酒でも飲まずにいられるか！」という心境だったのでしょうか。事実、東北の被災地でもアルコール依存の問題が急増していると聞きます。ことばや行動はその人の一部を表しているに過ぎません。むしろ、胸に抱えている悲しみや苦しみは、すぐにはそれとわからない形でしか見えてこないものなのだと思います。

さて、これからのわたしの目標は、南三陸町で出会った方々と再会し続けることです。寄り添いながら、人々とのつながりを絶やさないこと。それが東北の復興に最も必要なことだと考えています。

皆さんもぜひ、東北へ足を運んでみませんか。

プロフィール 1974（昭和49）年、大阪府生まれ。1999（平成11）年、関西大学大学院文学研究科教育学専攻修了。臨床心理士。兵庫県スモールカウンセラースーパーバイザー。播磨地区の小・中学校、公立高校のスクールカウンセラーとして勤務する傍ら、宮城県南三陸町の小・中学校臨床心理士のチームの一員として定期的な心のケア活動を継続中。

ありと かえるみち

清水優茉 (丹波市立黒井小学校2年)

(平成25年度のじぎく文芸賞〈詩部門〉最優秀賞受賞)

おうちまで きようそうやあ
って さきにいうた

よおい どんで はしった

とちゆうまで はしって うしろみたら
さきが すわっとった

どうしたんやろ おもて
さきのほうまで はしって いったら
さきは ありのぎようれつを みとった

きようそう しやへんの
って きいたら

はしったら ありさん ふむから
きようそう ないよ
って さきが いうた

さきは やさしいなあ
ほんなら あるいて かえろうかあ
って いうたら

にっこり わろて
ゆうゆのてを ぎゅっと つないできた

だからなあ ありとさきと
ゆっくり あるいて かえった



清水優茉さんの
コメント

妹とおさんぽをしていて、妹がアリにやさしくしていました。わたしは、妹のやさしい心がとてもスキなので、この「ありと かえるみち」をかきました。

本書は、語り部の第一人者と陽明学のエキスパートが、江戸しぐさの基本と応用、精神性について丁寧に解説しています。「仕草」と捉えがちですが、「思草」と表し、所作にはこれまで培ってきた考え方や隣人への思いが宿るといい、本当に大切なのは行動ではなく、その根底にある相手を思いやる心であると述べています。江戸っ子の粋なマナーをマスターしてみませんか。

開府から百年もたたないうちに、江戸は全国から人が押し寄せ、百万人を超える大都市になりました。「江戸しぐさ」は、異なる風習や習慣を持つ者同士が仲良く暮らすために生み出された生活の知恵です。

雨の日に互いの傘を外に傾げ、濡れないようにすれ違う「傘かしげ」腰をこぶし分浮かせて席を詰め、空席をつくる「こぶし腰浮かせ」

「江戸しぐさ」完全理解

越川禮子、林田明大著(三五館)



「江戸しぐさ」
おすすめの一冊



字幕副音声付き／34分／活用ガイドあり

平成25年度人権啓発DVD & VHSビデオ 「ヒーロー」が完成しました

近年、社会から孤立している人が増えてきており、孤独死などが大きな社会問題となっています。家族や地域、職場のつながり、いわゆる血縁や地縁、社縁の希薄化による問題です。こうした「無縁社会」と呼ばれる社会状況に対し、私たちに何ができるでしょうか。

この作品の主人公の行男は、働き盛りのサラリーマンです。地域社会と縁を持たなかった行男が、あるきっかけから地域と関わるようになり、今まで意識しなかった近所の高齢者や家族と出会っていきます。そうした体験の中で、自分の家族との絆も深めていきます。

「無縁社会」の中で、地域で起こる身近な人権課題に対し、傍観者としてではなく、主体的に行動することで、新たな地域のつながりを結んでいく大切さを実感してもらうために、このドラマを制作しました。DVDとVHSビデオの2種類があります。

出演／矢柴俊博、伊藤かずえ、佐藤元大、草村礼子 ほか

企画／兵庫県、(公財)兵庫県人権啓発協会

企画協力／兵庫県教育委員会 製作／東映㈱

●貸し出しについて

(公財)兵庫県人権啓発協会研修部 TEL078(242)5355

●購入について 東映㈱関西営業推進室 TEL06(6345)9026

イベントガイド

たつの市 人権を考える市民の集い (御津会場)	●日時／1月18日(土)13:30～15:45 ※無料、申し込み不要、手話通訳・要約筆記・託児有り(要申し込み) ●場所／たつの市御津文化センター ※山陽電鉄「山陽網干」駅からウエスト神姫「新町」下車、徒歩約10分 ●内容／人権作文表彰・朗読、講演「二度とない人生だから」中西玄禮師(総本山永観堂禅林寺管長)など ●問い合わせ／たつの市人権教育推進課 TEL0791(64)3182
姫路市 企業人権教育研修会	●日時／1月23日(木)15:00～16:30 ※無料、申し込み不要 ●場所／姫路市文化センター小ホール ※JR・山陽電鉄「姫路」駅から神姫バス「姫路市文化センター前」下車すぐ、山陽電鉄「手柄」駅から徒歩約15分 ●内容／講演「新しい視点から同和問題を考える」石元清英さん(関西大学社会学部教授) ●問い合わせ／姫路市人権啓発センター TEL079(282)9801
朝来市 人権教育推進協議会連合会 人権講演会	●日時／1月26日(日)14:00～15:30 ※無料、申し込み不要 ●場所／あさご・ささゆりホール ※JR「新井」駅から徒歩約10分 ●演題・講師／「元祖オーロラ輝子の親不孝人生～お母さん、生んでくれてありがとう～」叶麗子さん(歌手) ●問い合わせ／朝来市人権推進課 TEL079(672)6122

ハーフタイム

11月号を関係者にお届けした際、本誌に対するアンケートをお願いしました。寄せられたご意見には「タイムリーな人権課題が分かりやすく紹介されていて、毎号楽しみにしている」といううれしい声もあれば、「字が多くて読みづらいときがある」といったご指摘も。また、「人権問題は大切だと思っているが、自分のこととして考えないと心の中に入ってこない。地道に伝え続けることが大事」との言葉には、啓発活動により一層力を尽くさねばと使命感を新たにしました。読者の皆さんに親しみを持っていただけるよう、ご意見を誌面作りに役立てていきます。今年も「きずな」をよろしくお願いします。(小池)